

【目的】《近代家族》概念を導いたアナル学派の業績は、従来普遍的なものとしてきた家族のあり方が、近代に特殊なものであることを実証し、家族史研究の最も重要な成果の一つと目されている。わが国でも80年代以降、これらの研究に触発され、欧米の研究成果の紹介や整理をはじめとして、その研究視点・分析方法を踏襲した近代家族研究が進みつつある。本報告では、アナル学派の研究視点と分析方法、および《近代家族》概念を明らかにしたうえで、80年代以降の日本における《近代家族》研究の動向を概観し、日本における《近代家族》形成過程解明にむけての試みについて、問題点を整理するとともに、その発展にむけての若干の考察を加えることを目的とする。

【方法】(1)アナル学派の研究視点と分析資料・方法の特色を、ケンブリッジ・グループの研究と比較しながら明らかにする。(2)《近代家族》概念についての諸研究の整理。(3)80年代以降の日本の研究の整理と分析方法の検討・考察。

【結果】アナル学派は過去の民衆の家族生活を研究対象とし、家族の日常生活の諸相をしめすあらゆるもの——日記・おもちゃ・図像画など——を資料として、家族理念・感情の解明を試みてきた。80年代のわが国における近代家族研究は、①欧米の研究成果の翻訳、②研究成果の紹介、③近代家族概念の整理・検討、④日本における近代家族の形成を巡る研究、の4つに大別される。とくに④においては、近代家族論の視角や分析手法を用いて日本近代の家族をとらえなおすだけでなく、西欧型《近代家族》を特徴づける諸要素と日本近代の家族との非整合性を浮き上がらせることによって、逆に近代家族の特性に再吟味を迫る研究も見られ、今後の研究蓄積が期待される。